

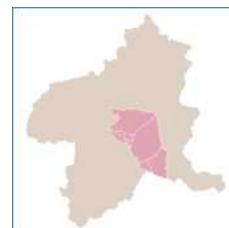
第5章 地域別推進計画（地域推進品目推進計画）

I. 中部地域

推進スローガン

担い手対策や省力化技術導入により 産地の維持発展と経営の安定を図る

【市町村】前橋市、伊勢崎市、渋川市、榛東村、吉岡町、玉村町



1. 現状と課題

中部地域は県の中央部に位置し、産地は赤城南麓から平坦部までの標高40～700mに広がっている。花き生産では、枝物、コギク、バラ等の切り花、シクラメン、カーネーション、アジサイ、オステオスペルマムなどの鉢物、花壇苗類といった多種多様な品目が生産され、平成30年の主な花き品目の産出額は11.4億円（H30群馬県花き生産状況調査）となっている。

担い手については、バラや鉢物、花壇苗などの施設栽培では、担い手（後継者）が多く育っているが、親世代の高齢化やパート確保が困難になっていることから安定的な労力確保や作業省力化が課題となっている。枝物やコギク等の切り花露地栽培品目では、高齢化や担い手不足が進み産地の維持が難しい状況になっており、部会活動支援等を通じて担い手対策や省力化技術の導入に取り組むことが課題となっている。

技術面においては、バラでは環境制御技術の導入が進んでおり、成果が挙がりつつあるものの、現地未実証の技術も多く、効果検証など技術導入支援が必要である。コギクでは、共販産地における検品強化等の取組みにより品質は年々向上しているが、県オリジナル品種の導入支援、適期出荷に向けた栽培技術支援などが必要である。シクラメンでは栄養診断技術、鉢物カーネーションでは開花調節技術を中心とした支援が必要である。

販売面については、生産コストの増大、需要や価格の低迷による販売価格の低下が経営を圧迫しており、予約相対率の向上による有利販売への取組みが課題となっている。具体的には、消費者ニーズを捉えた個性ある商品作りや、生産者自らの情報発信による顧客確保、出荷情報の事前提供徹底と迅速化等である。

2. 地域推進品目の推進対策

（1）ハナモモ

◎対象となる市町村：前橋市、渋川市

対策のポイント

- a) 生産部会活動の支援
- b) 品質保持剤活用の徹底
- c) 侵入害虫クビアカツヤカミキリの防除の徹底

3. 数値目標

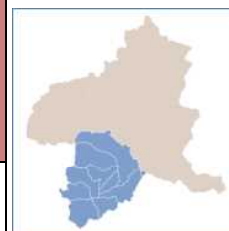
地域推進 品 目	平成30年 (基準年)			令和7年 (目標年)		
	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)
ハナモモ	5,800	406	57	5,000	400	50

第5章 地域別推進計画（地域推進品目推進計画）

II. 西部地域

推進スローガン 多様な自然環境のもと 多様な花き類の総合産地を目指す

【市町村】高崎市、藤岡市、富岡市、安中市、上野村、神流町、
下仁田町、南牧村、甘楽町



1. 現状と課題

西部地域は県の西南部に位置していて、標高60mの平地から800mの山間地まで農地が広く分布し、各地域でそれぞれの自然・立地条件を生かした多様な花き生産が行われ、平成30年の主な花き品目の産出額は9.5億円(H30群馬県花き生産状況調査)となっている。

比較的平坦な高崎・安中・藤岡・富岡の市部では、シクラメン、鉢物アジサイ、エラチオールベゴニアなどの鉢物、花壇用苗物類、バラ、シンビジウムなどの切り花の施設栽培が盛んで、後継者を中心とした若い担い手も多い。一方、中山間地域の甘楽町・上野村ではキク類、南牧村では宿根草・花木（枝物類）の露地切り花栽培が盛んであるが、中心となる生産者は60～80歳代が多く、高齢化が進んでいる。販売形態は、個選での市場出荷が中心であるが、シンビジウムやバラでは共選出荷、鉢物アジサイでは共同販売に取り組んでいる。また、キク類などの切り花では道の駅やスーパー、JA直売所などで直接販売されるものも多く、特に旧盆・秋彼岸では安定した販売が行われている。

品目や地域・経営体ごとに生産者の花き生産へ求めるものが異なることから、西部地域の花き生産を維持・発展させるためには、「儲かる花き生産の実現」と「生き甲斐である花き生産の維持」の二つの目標が上げられる。

「儲かる花き生産の実現」のためには、栽培技術水準の一層の向上による品質の高位平準化、有利販売のための生産量維持（担い手の確保）、希薄になりつつある生産者間の情報ネットワークの再構築などが重要となる。

「生き甲斐である花き生産の維持」のためには、定年帰農者など新たな担い手の育成及び確保、露地切り花における省力的な品目及び栽培方法の検討と普及、市場や直売所などへの販売環境の整備と販売場所の創出などが重要である。

2. 地域推進品目の推進対策

（1）シンビジウム

◎対象となる市町村：藤岡市

対策のポイント

- 産地PR、生産者PRの充実による知名度向上と有利販売の実現
- 詳細な出荷計画の策定による市場販売の安定化
- 夏期の高温対策による早期出荷の実現

（２）宿根草類

◎対象となる市町村：南牧村

対策のポイント

- a) 移住者・定年帰農者など、幅広い層への働きかけによる担い手の確保育成
- b) 産地PR等による花き産地としての知名度向上
- c) 新品目の導入や新たな切り前の提案による販売バリエーションの拡大

（３）エラチオールベゴニア

◎対象となる市町村：富岡市

対策のポイント

- a) 病害虫防除の徹底による品質のさらなる向上
- b) 定期栄養診断の継続実施による計画的生産技術の確立
- c) 環境制御技術を利用した高品質生産

3. 数値目標

地域推進 品 目	平成30年 (基準年)			令和7年 (目標年)		
	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)
シンビジウム	340	282	9	340	282	9
宿根草類	117	210	18	140	260	18
エラチオールベゴニア	210	150	3	210	150	3

第5章 地域別推進計画（地域推進品目推進計画）

Ⅲ．吾妻地域

推進スローガン 新規就農者の確保と出荷品質向上により 産地の維持を図ろう！

【市町村】中之条町、長野原町、嬭恋村、草津町、高山村、東吾妻町



1. 現状と課題

吾妻地域は県北西部に位置し、耕地は標高300mから1,400mと幅広く分布しており、東部の中之条町では年平均気温12.9℃(H30)、西部の嬭恋村(田代)では同8.4℃と地域差を活かした農業が行われる。花き栽培においても恵まれた日照条件や標高差を活かした切り花や鉢物生産が行われ、平成30年の主な花き品目の産出額は4.6億円(H30群馬県花き生産状況調査)となっている。

東吾妻町はキク類を中心とする切り花の生産が盛んで、特にスプレーギクは県内作付面積の7割以上を占める一大産地となっている。中之条町は中之条地区で輪ギクを中心に枝物類が栽培され、六合地区では冷涼な気候条件を活かした山野草や宿根草類の切り花栽培が盛んで、「六合の花」としてブランド化されている。コロナ禍のもと、輪ギクは業務需要の低落により市場価格が低迷している一方、山野草や宿根草類は家庭向け需要の拡大に伴い、小売り販売が好調となっている。高山村は村の花として市場からも評価が高いリンドウや輪ギクが栽培されている。

しかしながら、担い手の高齢化と後継者不足が深刻な課題となっており、生産量を維持するためには新たな担い手の確保と既存生産者の規模拡大、品質や単収の向上が急務となっている。こうした中、六合地区では関係機関や地域住民が受入体制を整備し、移住や就農希望者を研修生として受け入れ、独立支援により新規参入者を確保する取組が一定の成果を出している。

2. 地域推進品目の推進対策

(1) 輪ギク

◎対象となる市町村：東吾妻町、中之条町、高山村

対策のポイント

- a) 定年帰農者等を中心とした新たな担い手の確保・育成
- b)
- c) 既存生産者の規模拡大と品質・単収の向上
- d) 適期出荷に向けた開花調節技術の推進
- e) 検品体制強化による出荷品質の高位平準化
- f) 出荷前情報の提供による予約相対率向上
- g) 市場性及び地域適応性が高い品種の導入

〔2〕リンドウ

◎対象となる市町村：高山村

対策のポイント

- a) 村やJA、関係機関と連携した新たな担い手の掘り起こし
- b) 担い手受入れ体制の整備による定着支援
- c) 既存生産者の規模拡大と品質・単収の向上
- d) 難防除病害虫対策と総合的病害虫管理(IPM)の普及

〔3〕宿根草類（セダム類、アルケミラ等）

◎対象となる市町村：中之条町六合地区

対策のポイント

- a) 新規参入者確保のため関係機関と連携した体制づくり
- b) 既存生産者の品質・単収の向上
- c) 出荷規格統一による出荷品質の安定
- d) 出荷前情報の提供による予約相対率向上
- e) 生花店等流通関係者を対象とした産地PRと営業活動支援
- f) 新規参入者等の生産施設整備支援

3. 数値目標

地域推進 品 目	平成30年 (基準年)			令和7年 (目標年)		
	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)
輪ギク	921	1,969	20	865	1,980	17
リンドウ	182	400	15	185	405	16
宿根草類(六合地区)	3,000	2,494	70	3,200	2,650	70

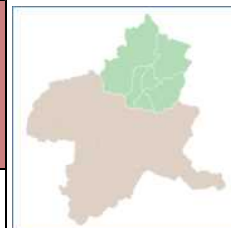
第5章 地域別推進計画（地域推進品目推進計画）

IV. 利根沼田地域

推進スローガン

切り花・鉢花ともに冷涼な気候を活かし
高品質生産を推進しよう！

【市町村】沼田市、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町



1. 現状と課題

利根沼田地域は群馬県北部に位置し、総面積1,766km²、県土面積の27.7%を占め、谷川岳等の名峰、尾瀬国立公園を有する農業と観光を基盤とする地域である。気象は沼田市の年平均気温が12.8℃(H30)と比較的冷涼で、昼夜の温度差のある中山間地域(標高300～700m)では畑作中心の農業が行われている。

主な花き品目の産出額は5.7億円(H30群馬県花き生産状況調査)であり、品目別では、バラとシクラメンで産出額1億円を超え、県内でも有数の産地である。切り花では、昭和村、沼田市にてスプレーギク、トルコギキョウ等の栽培が盛んであり、片品村ではダイコン経営の複合化品目として平成10年より花き栽培が導入され、切り花アジサイを中心に産地規模は年々拡大し、現在産出額55,000千円を超える産地へと成長している。また鉢物では、シクラメン、カーネーションの栽培が盛んで、担い手の世代交代が進み、意欲あふれる担い手により高品質生産が行われている。

課題としては、担い手の高齢化や後継者不足等による担い手の減少、景気の回復基調にもかかわらず花き需要の縮小に歯止めがかからない点が挙げられる。そのため近年、熾烈な産地間競争を呈しており、今後産地が持続的に維持発展するには、多様化する実需者や消費者ニーズを捉え柔軟に対応するため、市場や卸等実需者との関係強化や情報発信がこれまで以上に大切になってくると考えられる。

このため、まずは産地を中心にJAや公的機関等関係者が一体となって、産地間競争に勝って生き残る戦略を検討し共通認識を持つことが大切である。そして高品質安定生産を前提として、担い手の育成や雇用労力を活用した生産規模の維持拡大、産地認知度向上のための市場展示や産地見学会といった産地情報発信等、持続的発展のための取り組みを進めることが重要となる。

2. 地域推進品目の推進対策

(1) 切り花アジサイ

◎対象となる市町村：片品村

対策のポイント

- a) 病害虫防除や適期管理作業、高温対策による高品質安定生産支援
- b) 国内外での産地PR活動や市場等実需者との関係強化による契約的取引の拡大推進

- c) 台風等気象災害対策として施設化の検討推進
- d) 高齢化による担い手不足対策として新規就農者定着支援および農地流動化の促進
- e) 国内外の新規ニーズの探索による販路拡大の取り組み

3. 数値目標

地域推進 品 目	平成30年 (基準年)			令和7年 (目標年)		
	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)
切り花アジサイ	569	113	30	599	120	31

第5章 地域別推進計画（地域推進品目推進計画）

V. 東部地域

推進スローガン 高品質生産を武器に「選ばれる産地」 をめざす

【市町村】桐生市、太田市、館林市、みどり市、板倉町、明和町、
千代田町、大泉町、邑楽町



1. 現状と課題

管内は、県の南東部に位置する利根川と渡良瀬川に挟まれた地域で、耕地は標高10mから700mまで分布する変化に富んだ地形となっている。気候の特徴として、平坦部は夏季の最高気温が35℃を超える日が続く、全国有数の猛暑地帯である。

花き生産は、シクラメンやポットカーネーション、アジサイなどの鉢物生産が盛んで、平成30年の産出額は13.2億円(H30群馬県花き生産状況調査)であり、管内3地区で地域の特徴を生かした花き栽培が行われている。

太田地区は、切り花ではスプレーギク、輪ギク、鉢物ではラン類が生産され、輪ギクは県内で唯一、周年生産に取り組み、その技術水準は高い。

桐生地区は、鉢物(アジサイ、シクラメン)や花壇苗、バラの生産があり、若い後継者が育成されている。特に鉢物アジサイは県内を牽引する高品質生産で、県内最大の産地となっている。

館林地区は鉢物類(シクラメン、カーネーション、エラチオールベゴニア、観葉植物)や花壇苗類の産地で、近年ではトルコギキョウの周年生産が確立されている。鉢物カーネーションは、JA邑楽館林を中心に、共販体制が確立された全国でも有数の産地である。

このような中、近年の鉢物カーネーションでは産地間競争が激化しており、現在のギフト需要に特化した販売への対策が課題となっている。シクラメンにおいては、高度な肥培管理技術である栄養診断が普及しており、品質の高さが評価されているが、量販店向け需要に応じた生産と販売が望まれる。

また、切り花生産(輪ギク、バラ、トルコギキョウ)では、安定した周年生産を確立する上で、冬のボリューム不足など品質低下への対策が課題となっており、低コストで導入できる炭酸ガス施用方法の検討を進めている。

このことから、東部地域の花き産地を維持、発展させるためには、更なる品質向上と生産量の確保に加え、高品質生産を武器とした「選ばれる産地」づくりが重要である。

2. 地域推進品目の推進対策

(1) 輪ギク

◎対象となる市町村：太田市(施設栽培)、桐生市(露地栽培)

対策のポイント

a) (施設栽培)環境制御技術の導入による冬春期の品質向上

- b) (施設栽培)出荷前の作柄等、産地情報の提供による予約相対率の向上
- c) (露地栽培)難防除害虫対策の徹底による安定生産
- d) (露地栽培)花束加工等、高付加価値販売の拡大による経営安定

〔2〕 エラチオールペゴニア ◎対象となる市町村：桐生市、明和町

対策のポイント

- a) 高温対策の実施による夏期の生産安定
- b) 被覆肥料を利用した全量基肥施肥栽培による省力安定生産の確立
- c) 人手不足解消による生産および経営の安定

〔3〕 観葉植物 ◎対象となる市町村：板倉町、明和町

対策のポイント

- a) 新規実もの品目(オリーブ、ブルーベリー等)の栽培法確立による品質向上
- b) 土壌診断に基づく用土改善による品質向上
- c) トレードフェア出展等、販路拡大に向けた営業活動の強化による予約相対率の向上

〔4〕 洋ラン(鉢物) ◎対象となる市町村：太田市、館林市

対策のポイント

- a) 暖房および冷房コストの削減による所得率の改善
- b) トレードフェア出展等、販路拡大に向けた営業活動の強化による予約相対率の向上
- c) 市場外流通や直売の拡大による販売力の向上

3. 数値目標

地域推進 品 目	平成30年 (基準年)			令和7年 (目標年)		
	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)	作付面積 (a)	出荷量 (千本・千鉢)	農家数 (戸)
輪ギク	113	811	10	113	811	10
エラチオール・ペゴニア	40	95	2	40	95	2
観葉植物	174	21	2	148	18	2
洋ラン(鉢物)	110	29	6	110	29	6

第6章 スマート農業を活用した花き生産の推進

1. 目標

複合環境制御技術による品質・収量性向上 出荷量向上率 110%

項目	単位	平成30年(基準年)	令和7年(目標年)
対象品目の県内出荷量向上率	%	100	110

※対象品目：バラ、スプレーギク、トルコギキョウ

2. 取組内容

(1) 現状と課題

施設園芸では施設内の各種機器を複合的に制御し、植物生育に最適な環境をつくりだす「環境制御技術」への関心が高まり、果菜類や切り花類などの品目で導入されている。

本県花き農業においては、バラを中心に導入がすすみ、測定機器を使った温湿度や炭酸ガス、養水分などの計測による「環境の見える化」に取り組むとともに、これらの環境要素をコントロールすることで光合成能力の向上や生育促進を図り、増収や品質向上に結びつけている。スプレーギクやトルコギキョウ等においても導入が始まり、技術支援課と農業事務所が連携し、現地実証を行っている段階にある。

しかし、バラにおいても日射比例かん水をはじめとする技術は現地実証段階であるなど、確立された技術にはほど遠い。また、増収にあわせ収穫、調整の労力確保が必要になるなど、十分な成果を上げるためには栽培技術だけでなく、経営面を含めた検討も必要である。

主な課題

- ①生産者との連携による、個々の条件に応じた知見や管理手法等の蓄積
- ②蓄積した知見やデータ分析に基づく群馬県オリジナルのマニュアル作成
- ③マニュアルを核とした複合環境制御技術の普及、活用の推進

(2) 推進対策

環境制御技術の確立と定着による収量・品質向上

- a) 低コスト複合環境制御技術の研究と実用化
- b) 群馬県オリジナルの技術マニュアルの作成
- c) 品目横断的な県域の複合環境制御技術導入農家の組織化

第7章 推進体制

「群馬県花き振興計画」を実現するため、蚕糸園芸課に「花き振興計画推進会議」を設置し、目標の達成状況の把握、検証に努めるとともに、関係者が一体となって具体的な施策の推進を図る。

「花き振興計画推進会議」では、県及び地域段階における花き振興の進捗状況について検証、検討を行う。

また、分野ごとの課題に対して、3つのチーム(①生産技術チーム、②流通販売チーム、③需要拡大チーム)を設置し、対応する業務に応じて構成員を選定し、課題解決に向けて機動的かつ柔軟にチーム会議を開催する。



参考資料

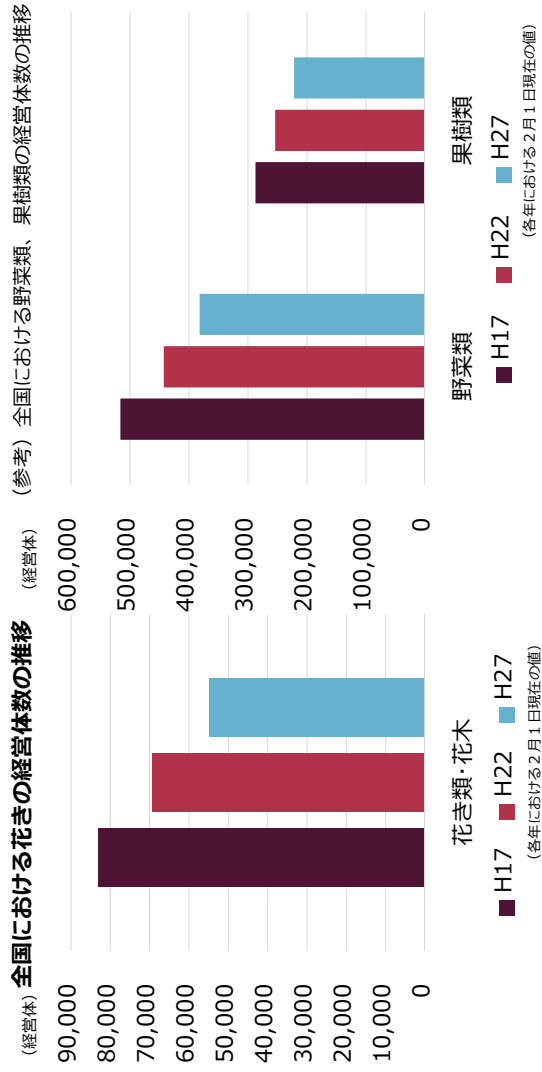
花きをめぐる情勢

1. 国内花き生産の現状
2. 本県花き生産の現状
3. 花きの流通・消費の現状

群馬県花き振興計画策定経過

1. 国内花き生産の現状

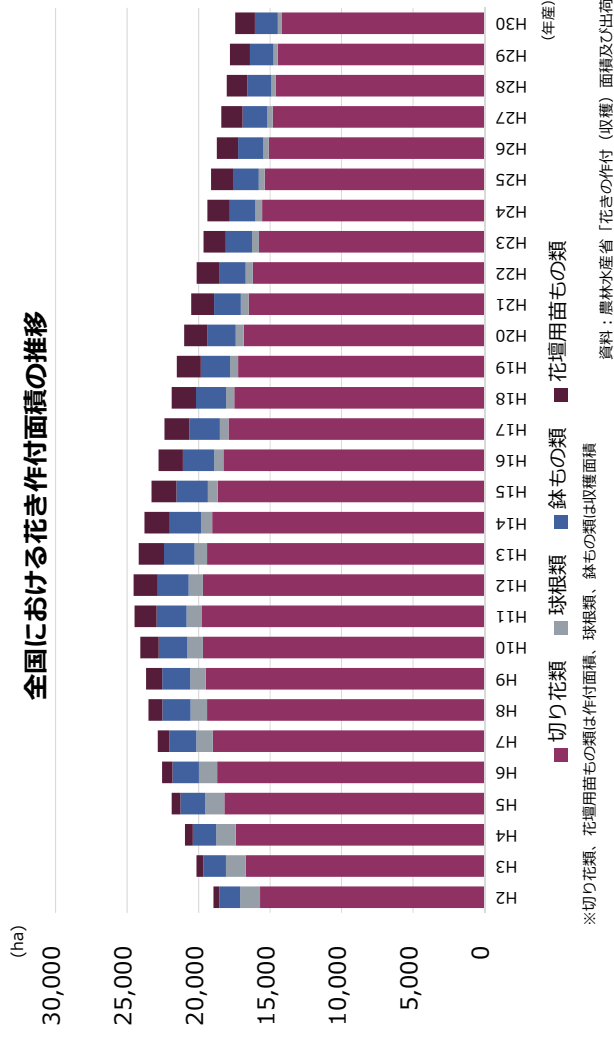
(1) 経営体数



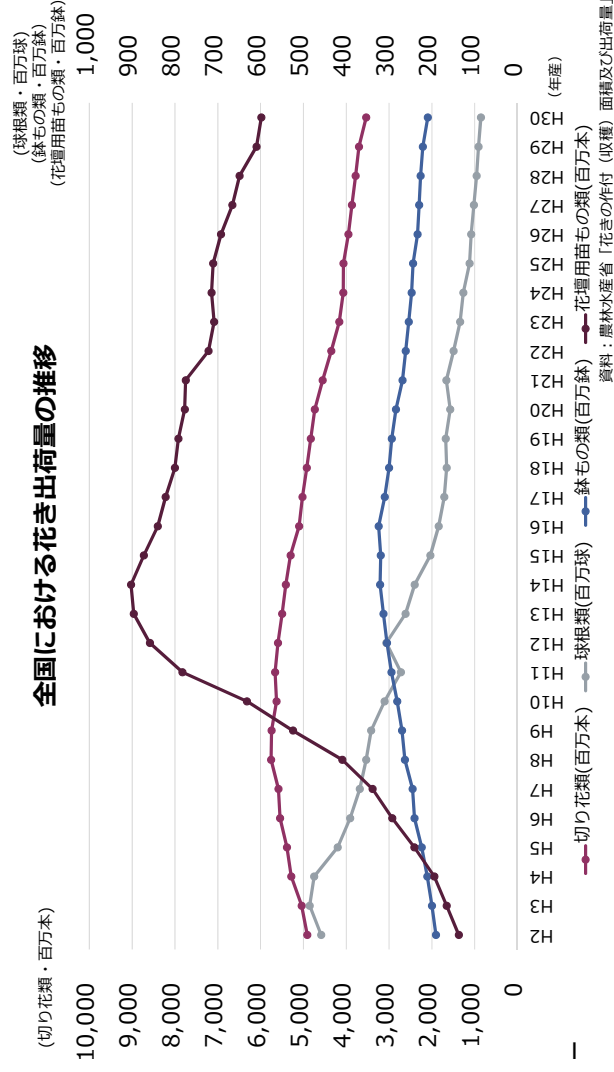
<参考資料> 花きをめぐぐる情勢

1. 国内花き生産の現状

(2) 作付面積

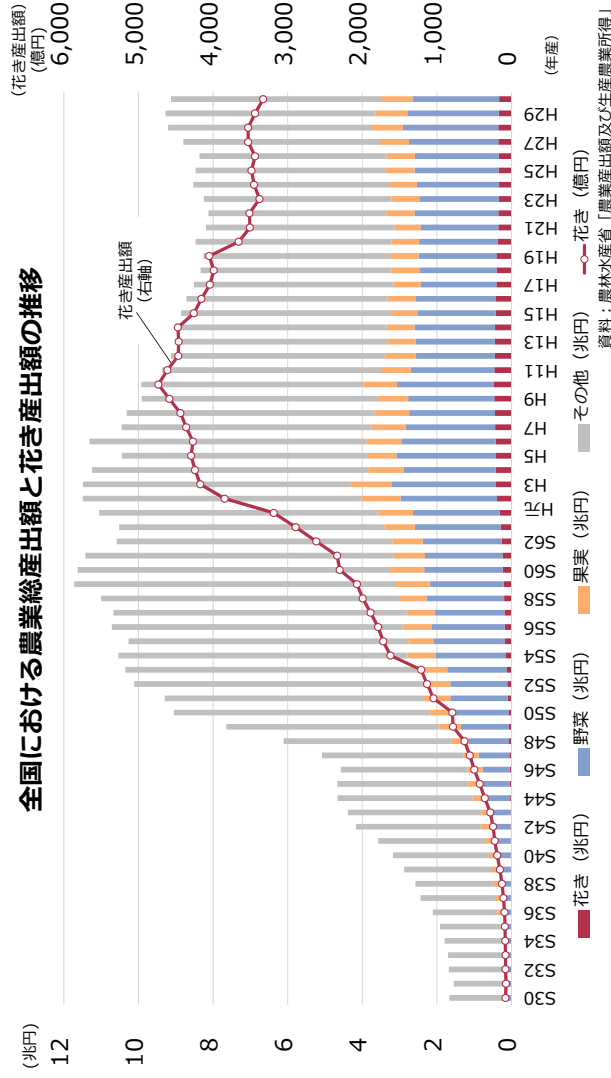


(3) 出荷量



1. 国内花き生産の現状

(4) 産出額



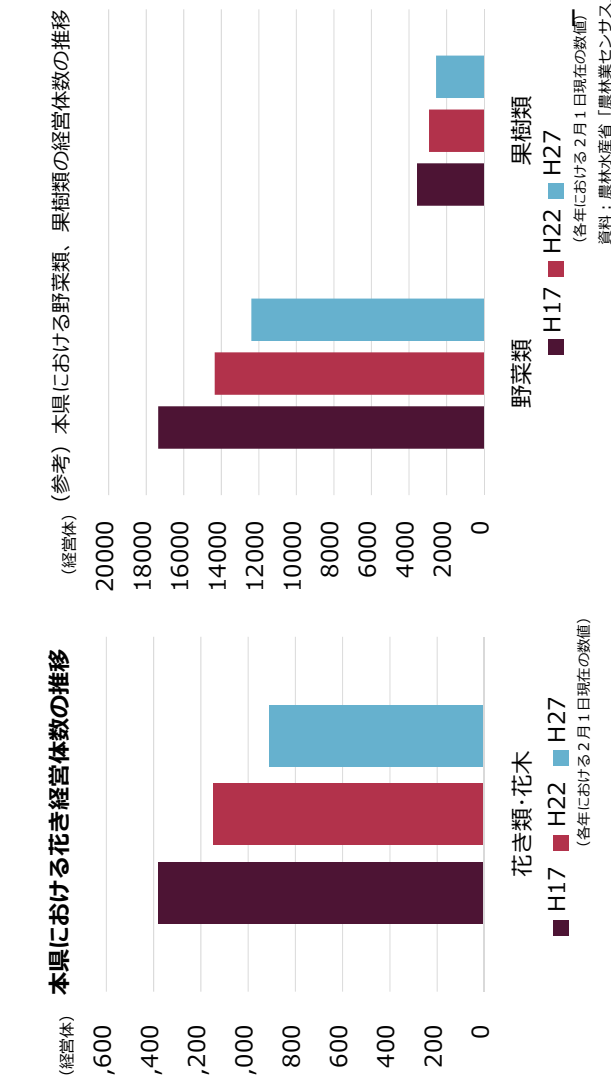
1. 国内花き生産の現状

(5) 都道府県別産出額



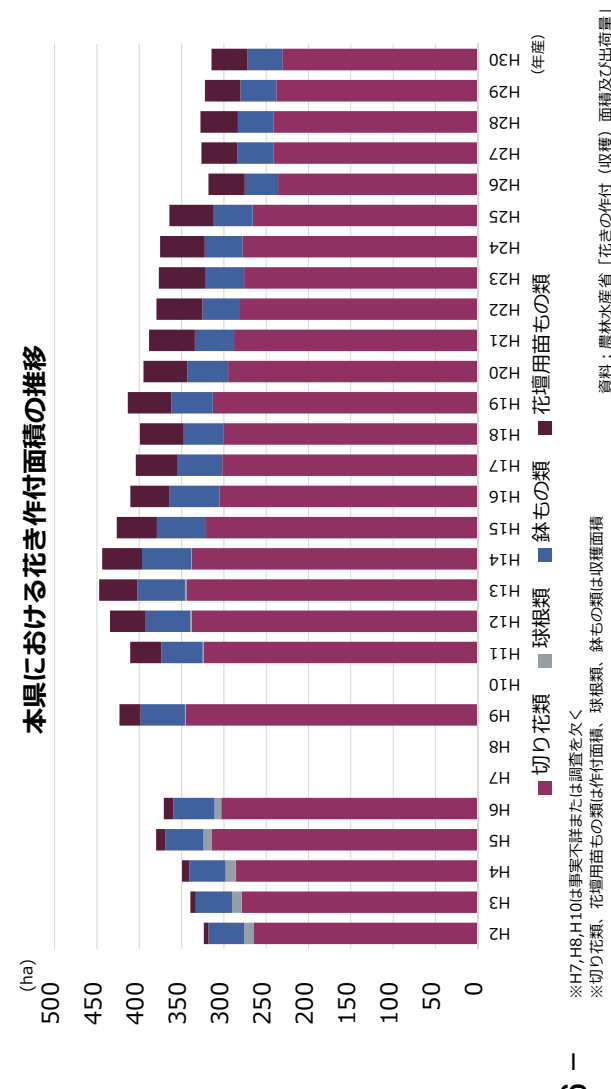
2. 本県花き生産の現状

(1) 経営体数



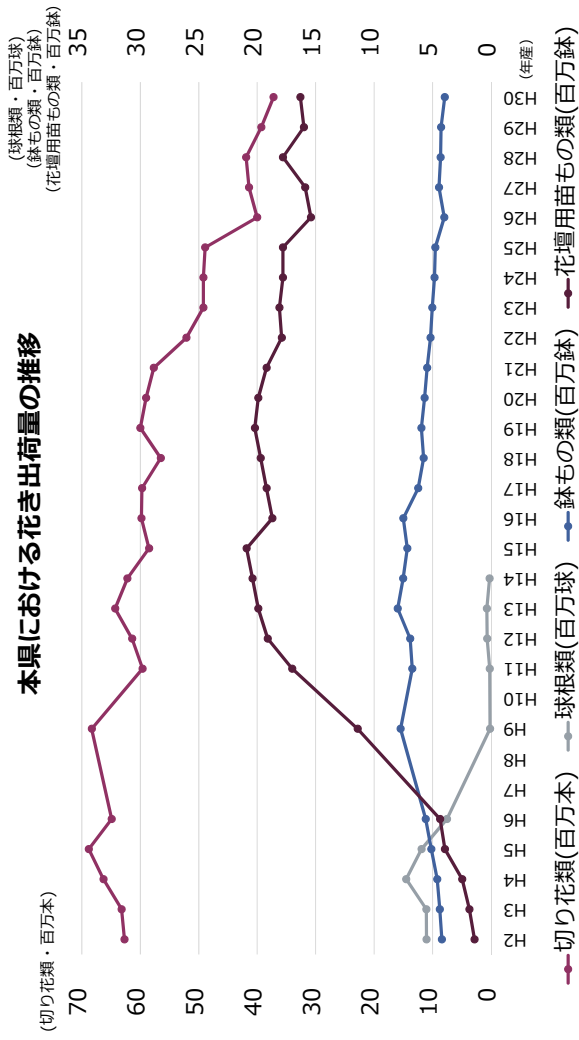
2. 本県花き生産の現状

(2) 作付面積



2. 本県花き生産の現状

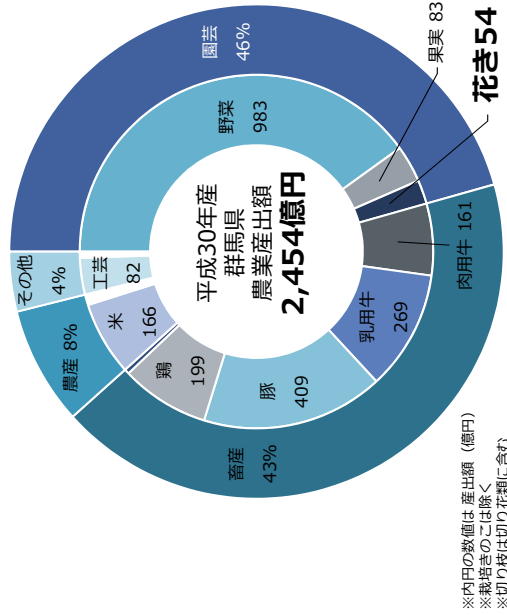
(3) 出荷量



2. 本県花き生産の現状

(4) 産出額② … 部門別

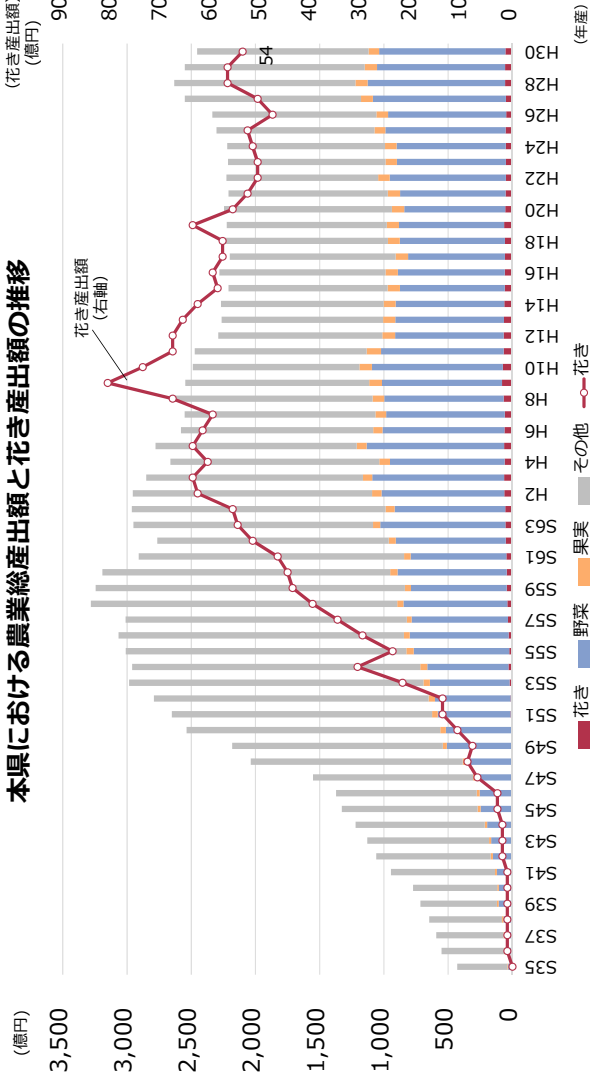
本県における農業産出額の部門別内訳（平成30年産）



資料：農林水産省「農業産出額及び生産業所得」

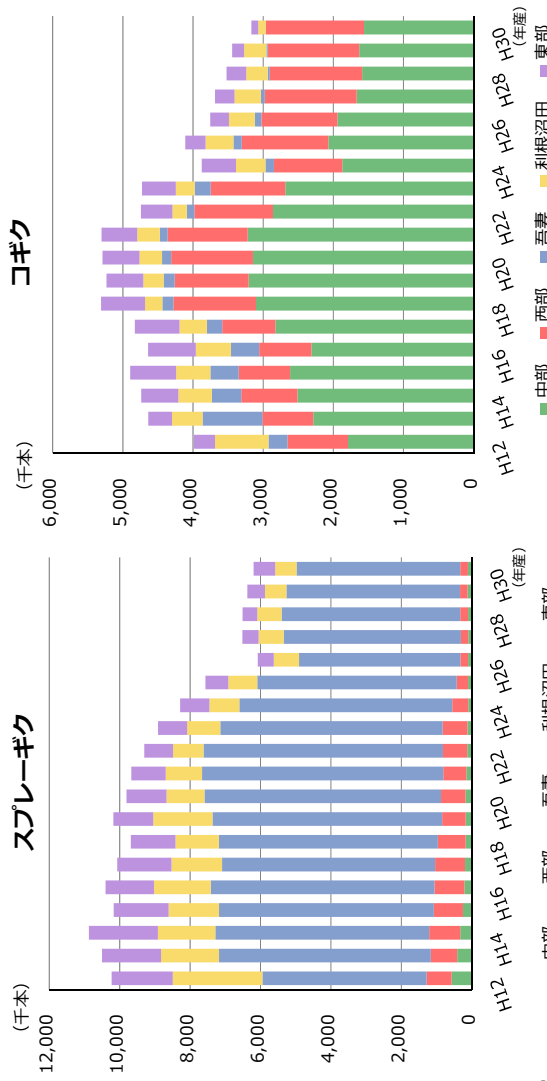
2. 本県花き生産の現状

(4) 産出額① … 年次別



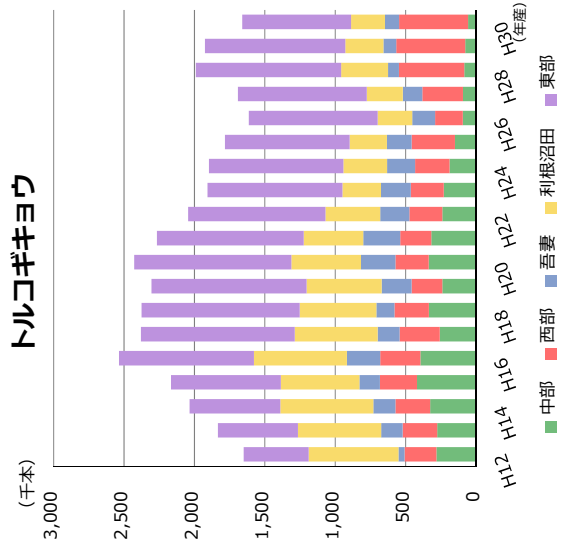
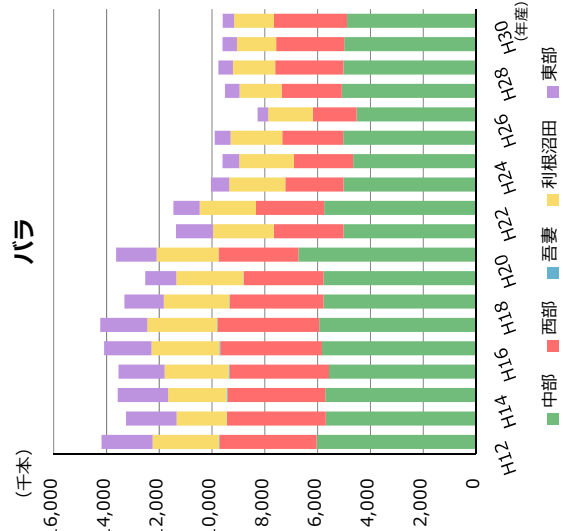
2. 本県花き生産の現状

(5) 品目別生産面積推移① … スプレーギク、コギク



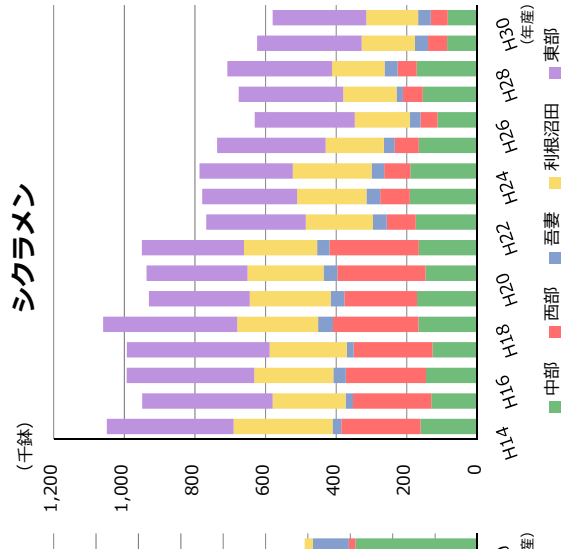
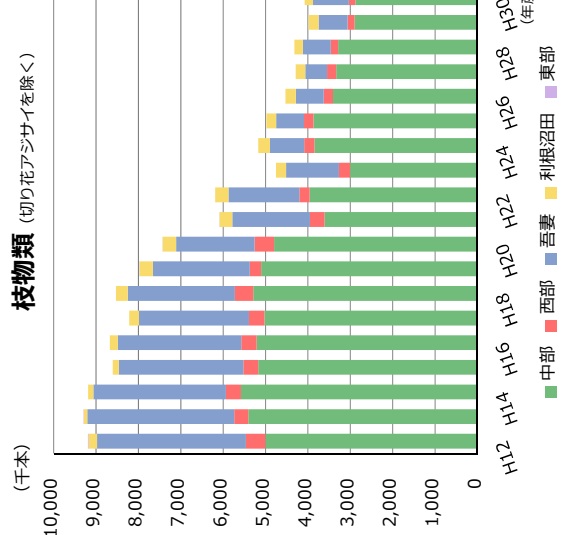
2. 本県花き生産の現状

(5) 品目別生産面積推移②



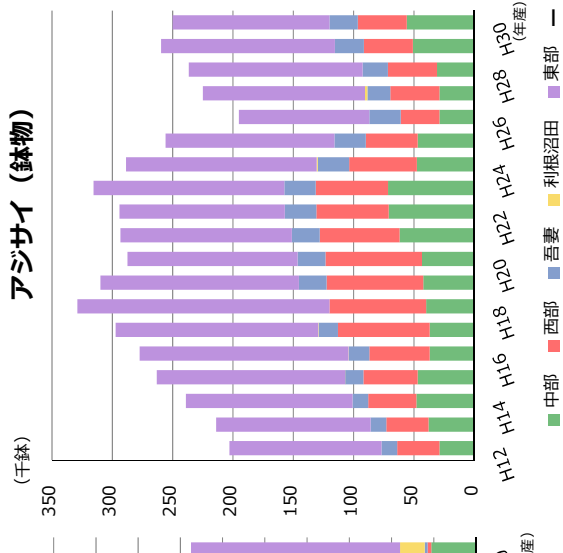
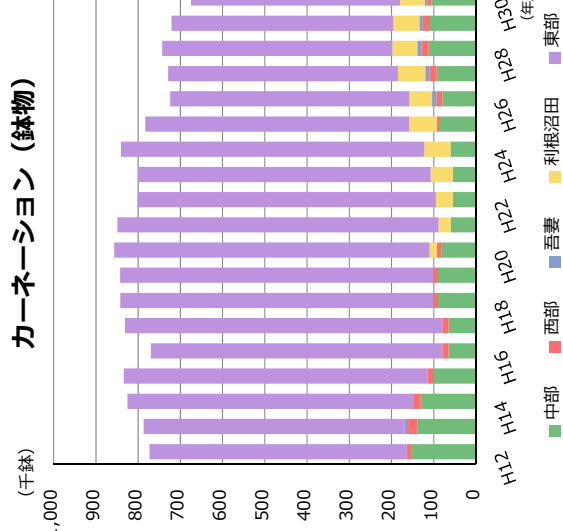
2. 本県花き生産の現状

(5) 品目別生産面積推移③



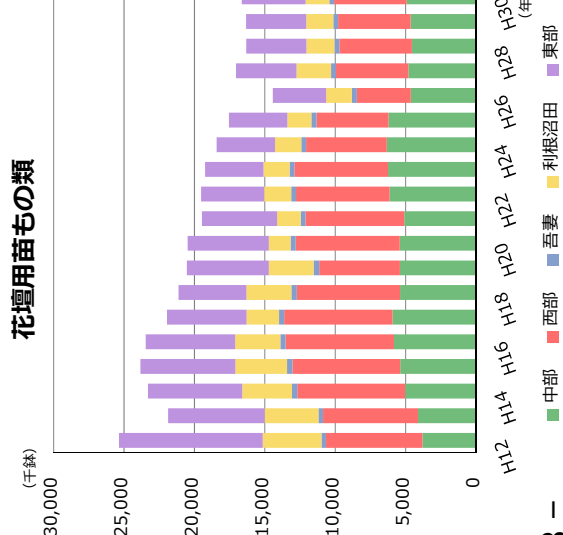
2. 本県花き生産の現状

(5) 品目別生産面積推移④



2. 本県花き生産の現状

(5) 品目別生産面積推移⑤



2. 本県花き生産の現状

(6) 系統販売

本県花き産出額に占める系統販売の割合

	H16	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
産出額 (億円)	68	53	51	51	52	53	48	51	57	57	54
系統販売 (億円)	25.8	23.4	22.8	20.9	21.8	22.2	18.8	20.3	21.1	20.5	21
系統販売率	37.9%	44.2%	44.7%	41.0%	41.9%	41.9%	39.2%	39.8%	37.0%	36.0%	38.9%

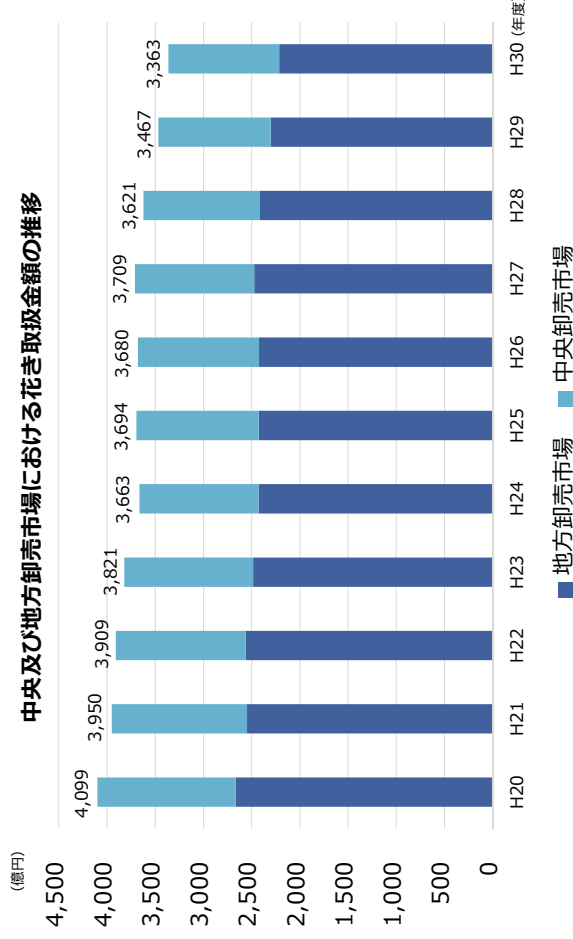
※産出額は年度（1～12月）、系統販売は年度（4～翌3月）を区切りとした取扱

資料：JA全農ぐんま「青果物取扱実績表」

3. 花きの流通・消費の現状

(1) 市場取扱額

中央及び地方卸売市場における花き取扱金額の推移

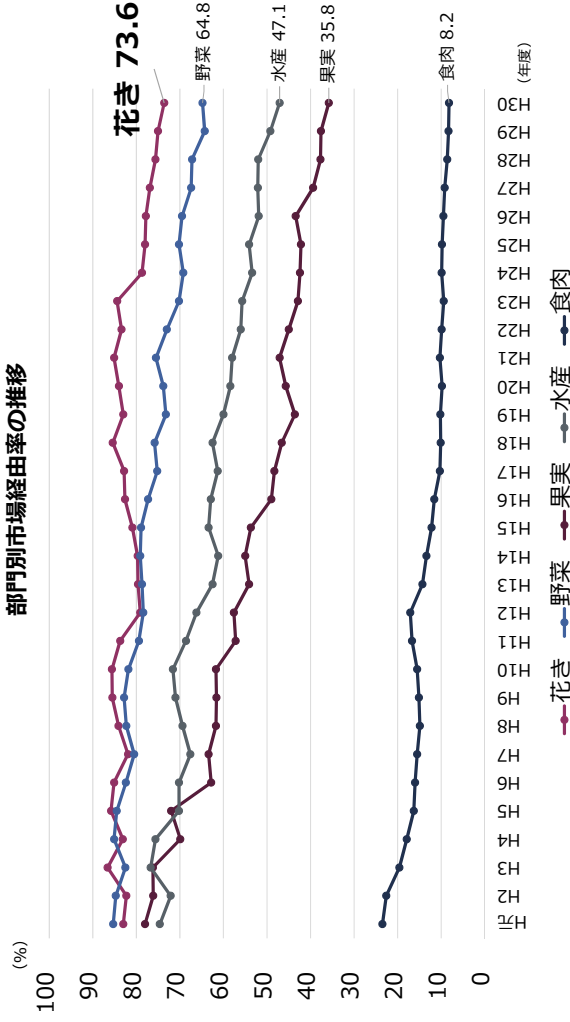


資料：農林水産省「卸売市場一夕集」

3. 花きの流通・消費の現状

(2) 市場経由率

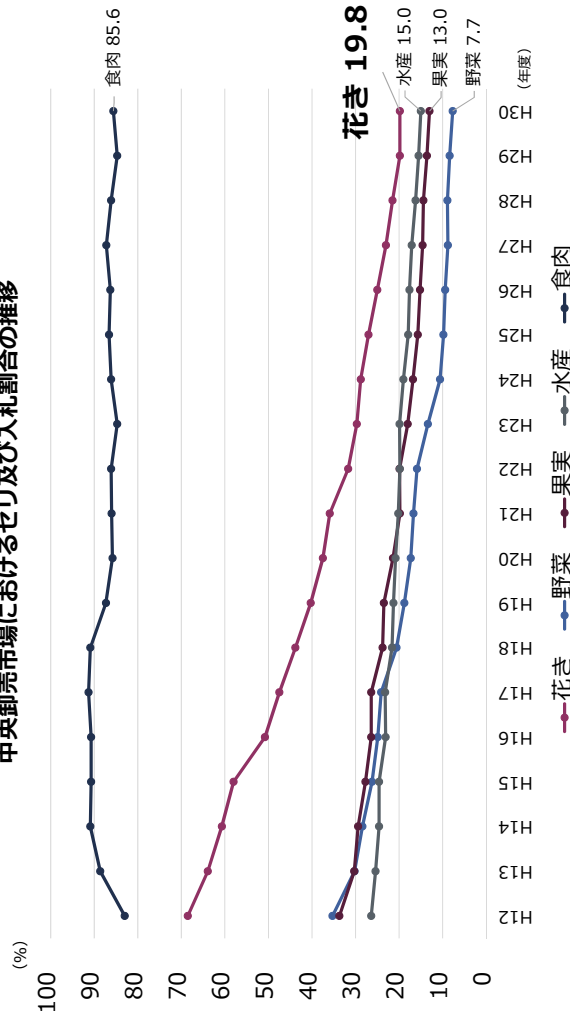
部門別市場経由率の推移



資料：農林水産省「卸売市場一夕集」

(3) 取引方法

中央卸売市場におけるセリ及び入札割合の推移

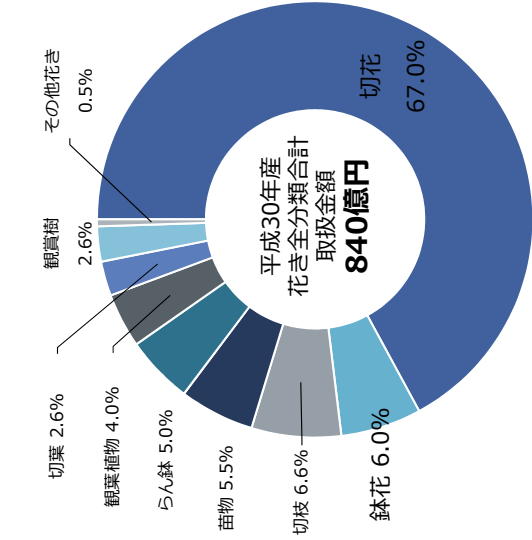


資料：農林水産省「卸売市場一夕集」

3. 花きの流通・消費の現状

(4) 東京都中央卸売市場① … 全体の取扱金額

花き取扱金額と分類別の構成 (平成30年産)



資料：東京都中央卸売市場統計

3. 花きの流通・消費の現状

(4) 東京都中央卸売市場② … 主な産地の構成と本県の地位

花き取扱金額の上位10産地 (平成30年産)

順位	産地	金額 (百万円)	占有率
1位	愛知	11,317	13.5%
2位	その他外国	9,238	11.0%
3位	千葉	6,888	8.2%
4位	埼玉	6,011	7.2%
5位	静岡	4,470	5.3%
6位	茨城	3,738	4.5%
7位	長野	3,390	4.0%
8位	栃木	3,043	3.6%
9位	山形	2,605	3.1%
10位	群馬	2,504	3.0%
	全国	83,952	100.0%

(参考)
本県産野菜、果実の占有率
野菜 6.5%
果実 0.4%

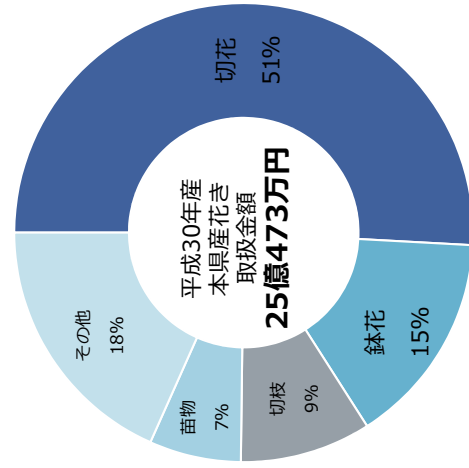
資料：東京都中央卸売市場統計

3. 花きの流通・消費の現状

3. 花きの流通・消費の現状

(4) 東京都中央卸売市場③ … 本県産花きの分類構成

本県産花き取扱金額と分類別の構成 (平成30年産)

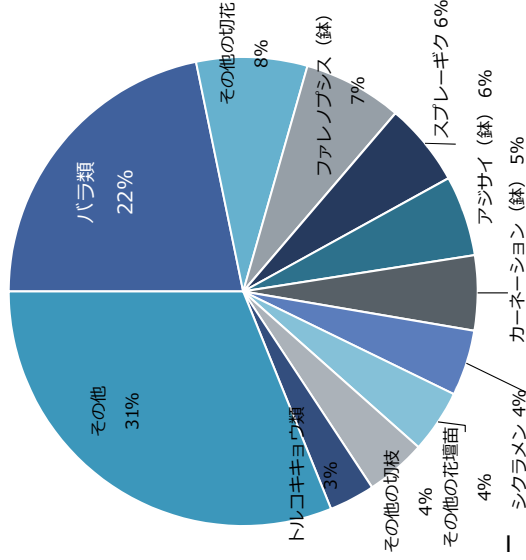


資料：東京都中央卸売市場統計

3. 花きの流通・消費の現状

(4) 東京都中央卸売市場④ … 本県産花きの品目構成

東京都中央卸売市場における本県産主要花きの取扱金額 (平成30年産)



資料：東京都中央卸売市場統計

3. 花きの流通・消費の現状

(4) 東京都中央卸売市場⑤ … 市場占有率の高い本県産品目

東京都中央卸売市場における本県主要取扱品目の順位（平成30年産）

産地別 順位	品 目	金額 (千円)	占有率
1位	カーネーション(鉢)	129,276	23%
2位	アジサイ(鉢)	138,822	20%
	シンビジウム	67,794	20%
3位	エラチオールペゴニア	22,220	15%
	シクラメン類(ミニを含む)	125,747	14%
5位	バラ類(スプレーを含む)	545,394	9%
	アジサイ(切)	25,091	6%
6位	スプレーギク	143,337	3%
	花壇苗類	145,894	4%
7位	コギク	29,435	1%
8位	切枝類	230,475	4%
	リンドウ	10,603	1%
17位	輪ギク	36,115	0%
18位	トルコギキョウ類	78,806	2%

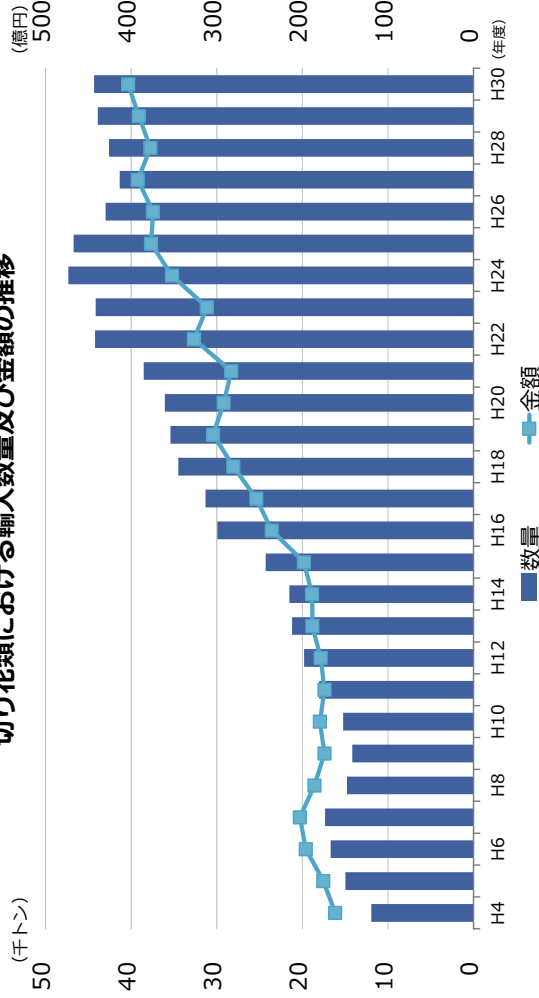
※順位は金額ベース

資料：東京都中央卸売市場統計

3. 花きの流通・消費の現状

(5) 輸入

切り花類における輸入数量及び金額の推移



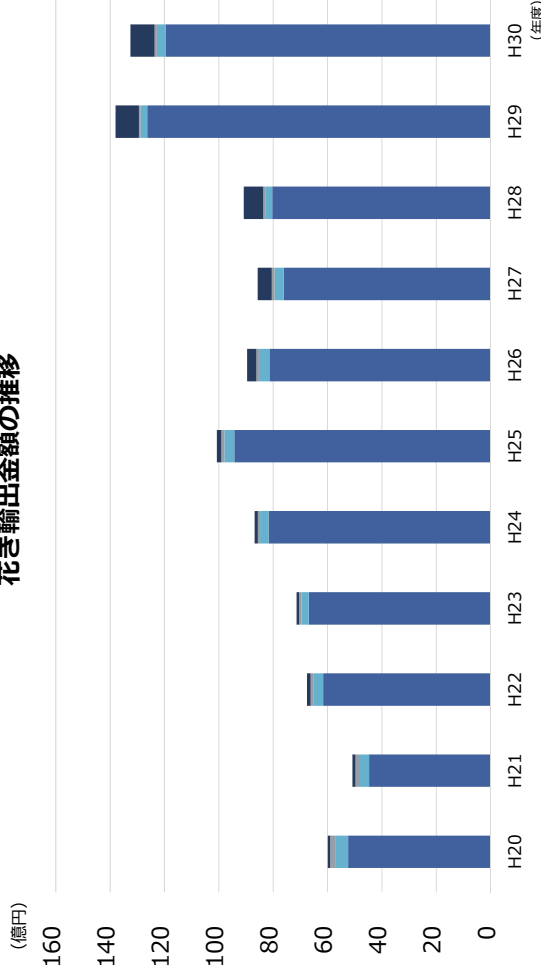
貿易統計のデータベース利用の都合上、「切り花類」は、「切り花及び花芽(生鮮のもの及び乾燥し、染色し、漂白し、染み込ませ又はその他の加工をしたもので、花束用又は装飾用に適するものに限る。)」としている。

資料：財務省「貿易統計」

3. 花きの流通・消費の現状

(6) 輸出

花き輸出金額の推移



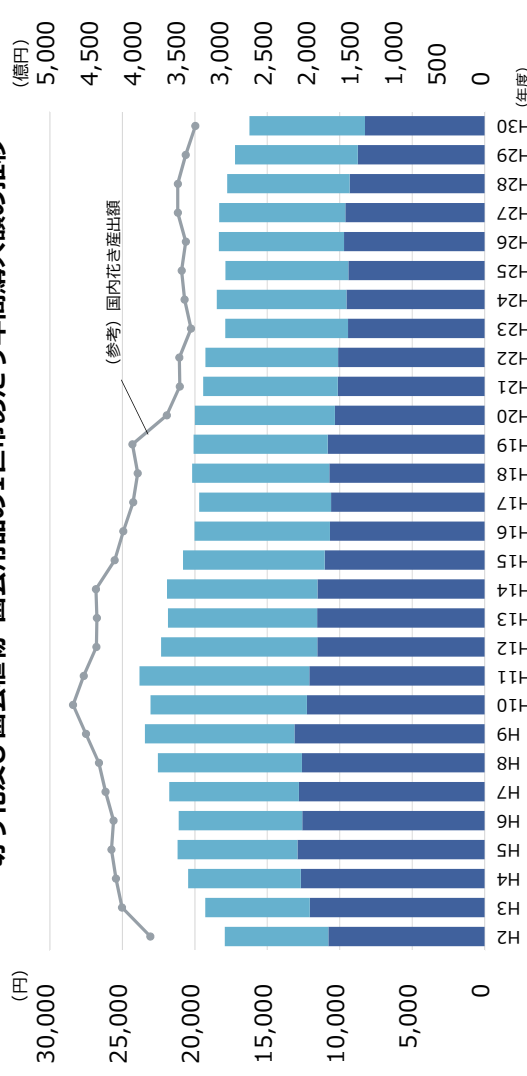
■ 植木等 ■ 苗物類 ■ 球根 ■ 切花

※農林水産省「農林水産物輸出入概況」

3. 花きの流通・消費の現状

(7) 花きの購入額

切り花及び園芸植物・園芸用品の1世帯あたり年間購入額の推移



■ 切り花 ■ 園芸品・同用品

資料：総務省統計局「家計調査」

群馬県花き振興計画(第7次) 策定経過

期 日	内 容
令和元年7月19日	花き振興計画策定検討会議の設置
7月19日	花き振興計画 第1回策定検討会議 (1) 第7次群馬県花き振興計画策定検討会議の設置について (2) 第6次群馬県花き振興計画の進捗状況について (3) 重点品目について (4) 第7次群馬県花き振興計画の策定について ・ スケジュールについて ・ 第7次群馬県花き振興計画(案)について ・ その他
8月7日	花き振興計画 第1回策定プロジェクトチーム検討会議 (1) 第7次群馬県花き振興計画策定検討会議の設置について (2) 第6次群馬県花き振興計画の進捗状況について (3) 重点品目について (4) 第7次群馬県花き振興計画の策定について ・ スケジュールについて ・ 第7次群馬県花き振興計画(案)について ・ その他
10月30日	花き振興計画 策定懇談会 (1) 第7次群馬県花き振興計画の策定について (2) 計画内容について ・ 振興方針 ・ 重点9品目推進計画・重点課題プロジェクト ・ 地域別推進計画 ・ その他
令和2年1月22日	花き振興計画 第2回策定プロジェクトチーム検討会議 (1) 策定懇談会結果について (2) 花き振興計画(案)の確認・検討について (3) その他
令和3年10月	策定検討会議構成員に対する花き振興計画(改訂版)の内容確認及び修正意見の照会
令和4年1月	策定懇談会構成員に対する花き振興計画(改訂版)の内容確認及び修正意見の照会

※第2回策定検討会議(令和2年3月25日)は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため開催中止

